

兵庫県の昆虫に関する学会誌・機関誌・同好会誌の変遷

高橋 寿郎

兵庫県下で昆虫に関する学会誌、機関誌、同好会誌(一部単行本も含む)がどのように発行されてきているのか、筆者所有文献で眺めその変遷をまとめて見た。何分にも貧弱な所有文献からのまとめであるから多くの脱落、間違いもあることだしくわからぬまま収録したものなど多くある。これ等について御教示、御指導頂ければ幸いである。

兵庫県博物学会誌

兵庫県博物学会は昭和5(1930)年設立会誌創刊号は昭和6(1931)年発行。昭和16(1941)年創立10周年記念号が発行され、それが最後となった。会長は阿部良平(以下敬称略)。植物関係の記事が多く、昆虫関係は佐藤茂樹、室井 綽、米谷正司、高橋寿郎等13篇が発表されているに過ぎない。

神戸二中(現兵庫高校)博物研究会

会誌 Nature 第1号、昭和10(1935)年出版、第9号、昭和14(1939)年まで筆者の手許にある。ただし生物研究部(園芸・飼育・博物)記念誌が県立兵庫高等学校創立七十周年記念として、1978年岡村はた博士印刷費全額負担にてB5、208p.の素晴らしい出版がされた。

研究誌“観察”の発行(1940)。

筆者も二中博物研究会々報を第1号-第5号(1940)発行、1939年には会誌 NATURE(B5、22p.)を発行した。

兵庫県中等教育博物学雑誌

創刊号が昭和13(1938)年6月発行(山鳥吉五郎が中心となる。創刊号には田中光照の“キベリハムシ”なる報文の発表がある)、第7号は会長山鳥先生還暦祝賀記念号として、B5、432p.の大冊の出版があり江崎佛三・小林桂助の寄稿その他当時の動植物界の著名な方の寄稿が多くある。この記念号

でもってこの雑誌が廃刊となる。この雑誌も昆虫関係の報文発表はそれ程多くない。

昆虫趣味の会神戸支部報

当時の日本の昆虫趣味の中心的存在であった昆虫趣味の会の神戸支部が昭和13(1938)年結成され、その支部報第1号が発行された(支部長、関 公一)。この支部報は昆虫趣味の会機関誌“昆虫界”にふくまれて印刷され会員には別冊として手渡された。

支部では談話会とか採集会をもった。昭和14(1935)年1月15日、一王山・大阪谷のオサムシ採集会には筆者も参加した。この採集会が兵庫県下で初めての冬季オサムシ掘り採集になる。この支部も支部長、幹事の間に感情の継れがあったようで支部報第5号が昭和15(1940)年に発行されたのが最後になった。

神戸一中(現神戸高校)博物学会があり、そこからも会誌が発行されていたと思われるが、詳しいことはわからなかった。特別号と思われるが昭和16年(1941)年“一中付近の昆虫”(40p. 孔版印刷)と題する印刷物が博物学会出版として発行されており筆者の手許にある。

周 達生によれば(民族動物学, p. 224, 1995)1994年に「六甲-神戸一中博物学会の歴史・神戸高校生物研究会の歴史・神戸高校自然科学研究会生物班の歴史」(193p.)なる出版物がある由。それを見れば博物学会のこともよくわかると思われる。

神戸博物同好会会誌“博物趣味”

相談役に中林馮次、山鳥吉五郎。顧問に紅谷進二他9名の名が出ているが神戸大丸の昆虫採集保存用具売場が事務局であったように記憶している。会誌といっても8ページの総アート印刷のパンフレット形式のものである。

筆者の手許にはVol. 1, No. 1(1939年, 5月号), Vol. 1, No. 2(1939, 6月号), Vol. 1, No. 3(1939, 7月号), Vol. 1, No. 4(1939, 10月号), Vol. 1, No. 7(1939, 11月号)しか無い。何時迄発行されていたものか全くわからない。昆虫に関する記事はわりと多くふくまれている。

関西昆虫学会, 同会会報, 時報, 関西昆虫雑誌.

大阪の寺西 暢・戸沢信義・岩田正俊と京都の竹内吉蔵, 松田良弘が作った「関西昆虫学会」から「関西昆虫学会々報」(昭和5年11月創刊, 昭和25年11月 Vol. 15, No. 2で終刊。1930—1950), 「関西昆虫学会時報」(昭和7年3月創刊, 昭和7年9月第4号をもって終刊), および「関西昆虫雑誌」(昭和8年3月創刊, 昭和14年第5巻第3号をもって終刊。1933—1939)は直接兵庫県には関係がないが, 兵庫県の昆虫に関する報文もあれば兵庫県の方の投稿は多くある。

但馬生物学会

山本茂信等により昭和22(1947)年但馬生物学会が設立された。この学会から機関誌が発行されていたかどうかは筆者は全く知らない, ただ研究会は開催されていたようである。

兵庫県生物学会々誌「兵庫生物」

紅谷進二が発起人となって, 昭和22(1947)年5月17日, 兵庫県生物学会が設立された。会誌「兵庫生物」の創刊号が昭和23(1948)年3月出版された。「兵庫生物」はVol. 10, No. 5(1994)でもって50年になる(1巻が5年間で発行)。1996年出版のVol. 11, No. 2誌上で兵庫生物学会50年の歴史特輯号が出版され, 同時に50周年記念誌「兵庫の自然探訪」(247p.)が出版された。Vol. 7位までには昆虫に関する報文が数多く発表になっている(山本広一, 山本義丸, 高橋寿郎などによる)が, Vol. 10あたりから減少気味になっており, Vol. 11あたりから更なる飛躍をと色々と案が提示されている。まだまだ継続発行されるので, 昆虫についての立派な報文の発表を期待するものが大である。

兵庫県生物学会ならびに学会々員有志による単行本が多く発行されている。それを次に記しておく(昆虫関係のみ)。

- ◎六甲の草と虫(林 中元著, 自刊。1954)
- ◎兵庫県生物誌(神戸新聞社刊, 兵庫生物学会編)(兵庫県生物展記念出版)。1956。
- ◎沿線の自然界(神戸電鉄)(室井 綽, 古川博二, 佐藤茂樹, 岡村はた編)。1958。
- ◎六甲の自然(六月社, 室井 綽編)。1961。
- ◎兵庫の自然(のじぎく文庫・兵庫県生物学会編)。1960。
- ◎ジュニア六甲(六月社・古川博二編)。1961。
- ◎明石の自然(大成塾・一色八郎編)。1963。
- ◎兵庫の自然(六月社・紅谷進二編)。1966。
- ◎続・兵庫の自然(のじぎく文庫・兵庫県生物学会編)。1969。
- ◎垂水の自然(垂水ライオンズクラブ教育委員会・室井編)。1973。
- ◎兵庫探訪・自然編(神戸新聞社会部著)。1974。
- ◎新・兵庫の自然(のじぎく文庫・兵庫県生物学会編)。1976。
- ◎六甲山の昆虫たち(のじぎく文庫・高橋寿郎著)。1981。
- ◎六甲の自然(神戸新聞出版センター・室井 綽・清水八重子編)。1982。
- ◎ヒゲナガカワトビケラ(西村 登著・文一総合出版)。1987。
- ◎六甲山の地理—その自然と暮らし—(のじぎく文庫・相坂耕作著)。1988。
- ◎但馬の自然(のじぎく文庫・兵庫県生物学会但馬支部編)。1990。
- ◎ひょうご昆虫ウォッチング(のじぎく文庫・神戸新聞社編)。1992。
- ◎丹波の自然(丹波自然友の会編・神戸新聞総合出版センター)。1995。

虫同友会々誌「MDK NEWS」

昭和22(1947)年10月1日, 吉阪道雄・法西定雄らが中心になって結成。創刊号は1947年12月, Vol. 31, No. 83(1981)が最終号。勿論虫の同好会誌

であるから全編虫の報文である。

別冊、六甲山蝶類目録(予報)(1954)、京阪神蝶類目録(1954)、虫同友会特別報告No.1(1955)、No.2(1959)がある。

神戸昆虫同好会々誌「Tritoma」

甲南高校 矢頭 昇、神戸高校 柴内俊次、清水良介、玉木健雄、京都大学 和田義人らによって神戸昆虫同好会が設立され、その会誌「Tritoma」のVol.1, No.1が1950年(July)に発行された。以後どうなったのか筆者の手許には創刊号のみしかないのでよくわからない、情報御教示頂きたい。

兵庫県生物学会氷上支部会報「氷上の自然研究」

第1号(1948)～第79号(1961)が発行されているとのこと。全く筆者見たことがないので、内容がどうなのか現在どうなっているのか不明。

丹波自然友の会々報「丹波の自然」

1号(1968)～291号(1994)が発行されている。この会報について筆者は全く見たことがないので内容不明、また現在どうなっているのかも不明。

柏原高校内丹波自然友の会・氷上文化顕彰会から雑誌「ひかみ」が第1号、昭和34(1959)年～第11号、昭和63(1988)年が出版されている。それから以後どうなっているかわからないが、中でも特集号として第3号(1961)、妙高山特集、第6号(1962)氷上郡昆虫目録追補、第7号(1963)粟鹿山特集、第8号(1967)佐治川特集、第9号(1977)特集竹田川の自然とあり、中には昆虫に関しての多くの記事がある(筆者の手許に「竹田川の自然」、「青垣の自然、第11号(1988)」がある。

氷上郡教職員組合文化部編「氷上の自然」

第1集が昭和22(1947)年発行されてこの第2集がこんどは氷上郡生物学会編、氷上郡文化協会発行となっており、昭和28(1953)年発刊である。この第2集には山本義丸による「郷土の昆虫(一)」という虫関係の報文が発表になっている。ただしこの「氷上の自然」、その後どうなっているのか全く

わからない。

柏原高等学校生物研究会々誌「Natura」

会の設立は昭和21(1946)年4月である。会誌の発行も同年。平成3(1991)年迄発行されているとのこと。それ以後どうなっているのかわからない。筆者の手許にはNo.6(1951)～No.19(1962)がある。これらの会誌には当時柏原高等学校で教鞭をとっていた山本義丸の指導があった関係で昆虫関係の発表が多くある。

兵庫県立長田高校生物部々誌「Shida」

手許には8号(1960)～10号(1962)がある。詳しくはわからない。これらには昆虫関係の記事は多い。

兵庫農科大学生物研究部部誌

第1号(1960)～第4号(1964)。第4号で終刊と考えられる。昆虫関係の報文ばかりである。

西脇自然同好会々誌

詳しくはわからない。西脇高校の教鞭をとっていた猪股涼一・岡本 清の指導があったと思われる。Vol.1, No.1(1965)のみ筆者の手許にある。昆虫関係の記事はこの号には多い。

西宮市立甲陵中学校生物部々誌「甲陵生物」

手許にはNo.1(1966)、No.2(1967)、No.4(1969)しかない。詳しい状況不明。ただこれらの号の頃には堀田 久が教鞭をとっていたので昆虫記事は多い。

兵庫むしの会々報 No.1,2(1966)

奥谷禎一博士、山口福男(兵庫農試)、大倉正文、高橋寿郎等が加わって兵庫むしの会を設立し(1966)、その会報1,2号を発行したが、奥谷禎一博士の留学を機に解散となった。

甲陽学院高校生物部々誌「生物甲陽」

手許にVol.2(1969)～Vol.16(1989)しかない。設立の経緯とか時期、現在の状況などわからない。

ここも東 正男が教鞭をとっていた関係で、昆虫関係報文の発表が初期の頃には多くあった。

兵庫昆虫同好会々誌「きべりはむし」

1972年設立、会誌創刊号(Vol. 1, No. 1・2)が出版されたのは1972年12月。当初辻 啓介の編集発行、Vol. 6, No. 1・2(1978・11月)から高橋寿郎編集発行、Vol. 23, No. 1(1995・5月)から近藤伸一・高島 昭の編集発行となる。

昭和49(1976)年兵庫昆虫同好会の協力で国定公園三県協議会発行になる“東中国山地自然環境調査報告”(B5, 310p.)の大冊が出版された。

昭和56(1981)年兵庫昆虫同好会創立10周年記念出版物として

高橋寿郎・兵庫県産甲虫類に関する文献目録・改訂版(高橋自費出版)を発行(B5, 42p.)。

平成7(1995)年特別号(Vol. 23, No. 3)を発行(B5, 69p.)。内容はいずれも高橋寿郎著。

兵庫・神戸を原産地とする甲虫

兵庫県産甲虫類に関する文献目録・追加。

1997年が会設立25周年に当たるので、25周年記念特別号(Vol. 25, No. 3, 4)として、

高橋寿郎・日本に産するコガネムシ類の分類目録。

高橋寿郎・きべりはむし総目次

の出版があった。

兵庫虫報Vol. 1, No. 0(1973)～Vol. 3, No. 3(1975)(現在休刊中)。

“きべりはむし”は現在でも発行が続いているし、勿論全部昆虫の報文である。

三木高等学校生物部々誌“釜城生物”

1989年再刊号No. 1が発行され、1991年No. 5でもって休刊となった。主に永幡嘉之が在学中に発行したもので、後継者がいないので再刊は難しいと思われる。全編昆虫の報文である。その間1989年には生物部採集報告書(B5, 32p.)の出版がある。

伊丹生物研究会々報

創刊号(1976)－11号(1980)。

それ以後のことは不明。昆虫の記事は少ない。

伊丹市自然調査報告「伊丹の自然」

伊丹市立博物館より表記第1号の出版が昭和59(1984)年3月であり、平成8(1996)年第13号でもって終刊となった。その間市立博物館開館5周年記念特別展として“昆陽池の自然”の出版があった(1977)。さらに平成4(1992)年には「伊丹の自然、第1巻、第2巻、総頁373p.」におよぶ大冊(カラー図版多数、別冊・付図付)が出版された。全般的には昆虫関係の報文は少ない。

兵庫県自然保護協会々誌「兵庫の自然」

手許にあるのはNo. 1(1971)～Vol. 10, No. 2(1981)。これ以後のことはわからない。昆虫関係の記事は少ない。

昭和48(1973)年協会が調査研究して兵庫県生活自然課より“兵庫県の自然の現状”(B5, 136p.)、昭和49(1974)年“兵庫県の自然の現状Ⅱ”(B5, 79p.)が出版され昆虫についての報告もある。

兵庫県自然保護協会々報紙

会員日報No. 1(1982)－No. 10(1983)。

自然保護のひろばNo. 1(1982)－No. 4(1983)。

会員のひろばNo. 1(1982)－No. 10(1983)。

以上3紙のその後の状況全く知らない。

全般に昆虫関係の記事はほとんどない。

昭和43(1979)年兵庫県自然保護協会鈴蘭台支部より“藍那地区自然環境調査”(B5, 60p.)を出版した(昆虫の報告数篇あり。筆者も甲虫についての報告を執筆した)。

播磨蝶友会々誌「ひろおび」

本会は入江照夫、岩村 巖、尾崎 勇、川崎悟良、佐々木 薫、苦木 隆平、広畑政巳、八木 弘らによる会として会員を増員しないといった会則に基づいて運営された。会誌“ひろおび”0号(1976)から始まったようである。No. 8(1989)迄手許にあるがそれ以後発行されているのかどうか不明。会名のごとく蝶専門誌である。

兵庫県自然保護協会宝塚支部

宝塚自然に親しむ会々報「宝塚の自然」

支部長 東 正雄, 副支部長 三木民子, 機関誌担当理事 新家 勝.

会報創刊号は1997年に発行1997年現在11号まで発行. 昆虫に関する記事もわりとある. 尚当会のメンバーが主体となって宝塚市教育委員会が編集発行した「宝塚のとんぼ」(1982), 「宝塚の昆虫 I」(1992)~VII」(1994) (B5, 55p. +1794p. 総アート各ページ写真入り, カラー図版付)の素晴らしい出版がある.

兵庫県環境管理課・新観光課・林務課

会誌「自然とともに」

昭和63(1988)年2月創刊号, 平成9(1997)年38号が発行され目下継続中. 虫についての記事もある.

兵庫県立人と自然の博物館

和文紀要「人と自然」. 英文紀要「Nature and Human Activities」. ニュース「ハーモニー」.

「人と自然」はNo. 1(1994)~No. 7(1996).

「Nature and Human Activities」はNo. 1(1997).

「ハーモニー」No. 1(1992)~No. 13(1996). いずれも目下継続発行中. 博物館の出版物だから昆虫関係の記事の発表もある.

兵庫陸水生物研究会々誌「兵庫陸水生物」

西村 登博士が中心になって1981年1月兵庫陸水生物同好会として設立. 会報No. 1は1981年1月に発行. Vol. 2, No. 1 (No. 5) から会誌「兵庫陸水生物」に変わる(1982).

No. 18(1985. V) 兵庫陸水生物研究会に会名変更, 会誌名は変わらない.

兵庫陸水生物研究会々誌「兵庫陸水生物」No. 48(1997), 目下継続発行中. 水棲昆虫の報文多し.

兵庫陸水ニュース 河原版. No. 1(1994)~No. 9(1997), 目下継続発行中.

淡路昆虫同好会々誌「PARNASSIUS」

登日邦明, 堀田 久らにより昭和42(1967)年設立, 会誌「PARNASSIUS」が発行された. 1997年でNo. 45が発行されており引き続いて発行されている. やや不定期刊行の様相を呈している. 勿論淡路島の昆虫についての報文が大部分である. No. 1(1967)~No. 45(1997).

淡路昆虫同好会連絡誌「Insect」.

No. 1~No. 36(1985), 目下休刊中.

姫路昆虫同好会々誌「てんとうむし」

会長山本広一, 副会長岩村 巖, 幹事木村三郎, 相坂耕作らにより1976年5月設立, 会誌「てんとうむし」の創刊号は1976年6月発行された. No. 10(1987)で休刊状態となったが1997年No. 11が相坂耕作の手によって復刊, 今後引き続いて出版される予定, その間「てんとうむし」特別号として「遊虫千年」が1994, 1995年と2回発行された.

姫路昆虫同好会連絡誌「姫昆サロンニュース」

No. 1~no. 125(1997), 目下継続発行中.

但馬むしの会々誌「IRATSUME」

豊岡高等学校卒業生谷角素彦, 遠藤知二らの発案でそれに高橋 匡, 足立義弘, 石田邊也, 木下賢司等が加わって会として発足, 会誌「IRATSUME」創刊号は1977年発行され, 1996年20号が発行, 順調に発行が続いている. 主として但馬地方の昆虫相解明につとめられている(会誌名IRATSUMEは豊岡市周辺の低山地に分布するウラクロシジミの属名で「郎女(いらつめ)」の意味).

兵庫野鳥の会々誌「鳥と自然」

小林桂助, 坂根 千らが中心となって野鳥の会が設立され会誌「鳥と自然」が発行されている. 筆者の手許にはNo. 5(1977)~No. 86(1997)があり, 目下継続発行されている. 元来鳥についての会誌であるが, 小林桂助会長のおすすめで高橋寿郎が兵庫の昆虫についての報文を発表したりしている.

大阪昆虫同好会々誌“Crude”

昭和43(1968)年3月21日に当時大学生であった人々が中心となって設立された会である。会の設立以来能勢地方の昆虫相及びその生態の調査・解明を主要活動の一つとして実施してきている。会名が大阪昆虫同好会になっていて兵庫県との関係がないように思われるが、能勢地方ということであれば兵庫県とは無縁ではないし、事務局も神戸市北区にあり会誌“Crude”は1997年1月に41号が発行され、それには兵庫県の昆虫に関する記事が多くある。

1981年能勢地方共同調査報告書として“北摂の昆虫(1) 蝶類”の中にも1989年の創立20周年記念出版“北摂の蝶”にも兵庫県の記録が多くふくまれており会員も兵庫県の人達が多い。1998年には30周年記念出版“北摂の昆虫 2”が計画されており、会誌“Crude”には前に記したように兵庫の昆虫に関する報文も多く発表されているし筆者も兵庫県の虫についての多くの投稿もしており、県の虫については忘れることの出来ない同好会である。

ひょうご環境創造協会の情報紙「エコひょうご」(財)ひょうご環境創造協会発行。

筆者の手許にはNo. 2, 冬号(1997)からNo. 5, 秋号(1997)までが送られて来ている。創刊は1996年の秋号からなるのかと思われるが——。この中に“ひょうごの生き物”シリーズとして、昆虫が②クロツバメシジミ, ③ヨコズナサシガメ, ④ゲンジボタル, ⑤マユタテアカネと美しいカラーで紹介されている。このシリーズが続くのであれば大変期待がもてる。

はじめにのべた如く筆者の所有文献でまとめたものであるから抜けている点、補足しなくてはいけない点が多々あるかと考えられる。御教示、御叱正を頂ければ幸いである(記述の頃は不同である。お赦しを頂きたい)。

(XI・1997)

(附記)

脱稿後東京の斉藤洋一氏から「博物趣味」十一月号(昭和十五年十一月一日発行)(1940)をコピーして送って頂いた。巻、号の記入もなく奥付もない。

発行年月日からすれば第2巻になるのであろうと思われるが、よくわからない出版物である。内容も植物に関するものの記事のみで、虫とは全く無縁の内容である。コピーをお送り下さった斉藤氏に厚く御礼申しあげる。また、筆者の手許に阪神大地震で亡くなった石田 裕氏に頂いた同氏著“The Catalogue of the Japanese Tripulidae, with the keys to the genera and subgenera I ~VI” 兵庫農業短期大学研究寛録第4号: 106-135, 1955., 第5号: 59-78, 第6号: 122-149, 1957., 兵庫県農科大学研究報告Vol. 3, No. 2: 37-42, 1958, Vol. 4, No. 1: 1-11, 1959, Vol. 4, No. 2: 27-34, 1960, Vol. 5, No. 1: 1-8, 1961, 全頁111p. 他に“Some New Species of the Genus Pterostichus from Western Japan, 兵庫県農科大学研究報告Vol. 3, No. 2: 32-36, 1958”の大変貴重な論文別刷があり、さらに奥谷禎一博士等によるゴミムシ類の研究論文、神戸大学農学部研究報告Vol. 9, No. 1: 75-79, 1971別刷を頂いている。

これらによると兵庫県下の各大学における紀要とか研究報告などの出版があり、昆虫に関する論文の発表も多くあると思われるが、筆者のようなアマチュア研究者、即ち一般人としては眼にすることが大変困難であり、入手も難しい文献類であり、ここには一切ふれていないことをお断りしておく。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)